

平成29年度

学校関係者評価報告書

平成30年 4月13日

学校法人 東洋学園

宮崎医療管理専門学校

はじめに

宮崎医療管理専門学校では、学則及び自己点検・評価規程に拠り、自己点検及び学校自己評価を実施しております。平成29年度の学校運営や教育活動等についても、年度初めに全教職員に提示した要項に基づき、年間を通して評価活動を行い、その結果を平成29年度学校自己評価報告書として取りまとめました。

以上をもとに、平成30年3月26日に第2回学校関係者評価委員会を開催しましたので、その評価結果について、ここに報告いたします。

なお、本報告書につきましては、学校自己評価報告書と同様、本校のホームページにて公開いたしますことを申し添えます。

平成30年 4月13日
学校法人 東洋学園
宮崎医療管理専門学校
学校長 川野 竜太郎

1. 宮崎医療管理専門学校 学校関係者評価委員会 委員一覧

関係機関・団体・企業	職名	氏名	備考
医療法人 慶明会	常務理事	牧野 剛	
社会福祉法人 宮崎市社会福祉協議会	総務課長	井畑 信二	※欠席
医療法人社団 善仁会 総合健診センター	統括	川端 利彦	委員長
社会福祉法人 芳生会	施設長	坂口 和幸	同窓会会長
社会福祉法人 恵浄福祉会	園長	川添 教道	
医療法人財団 高信会	総括課長	野中 恵子	

事務局

宮崎医療管理専門学校	学校長	川野 竜太郎	自己点検・評価 委員会委員長
〃	教務部長	川野 哲朗	自己点検・評価 委員会委員

2. 委員会次第等

1) 日時 平成30年 3月26日(月) 14:00~15:00

2) 場所 宮崎医療管理専門学校 会議室

3) 次第

- (1) 開会、委員長挨拶
- (2) 事務局挨拶
- (3) 平成29年度自己点検・評価報告
- (4) 各委員からの評価及び意見
- (5) まとめ

3. 内容

※井畑委員について、関係資料を提示及び説明のうえ、ご意見等をいただき、次年度教育課程編成の参考にさせていただく。

1) 事務局（学校長）挨拶

本年度の学生募集の結果、学校経営上、次年度も厳しい状況にある。そのことが、他の改善事項にも影響を及ぼしていると思われるが、本委員会や関係団体等の協力もいただき、学校自己評価により上がったそれぞれの課題の改善に努め、より良い学校運営に当たっていきたい旨の内容。

2) 自己点検・評価の取り組み状況、結果について

- ・学校評価の内容、方法、根拠の説明 <事務局：教務部長>
- ・平成29年度自己点検及び評価報告 <事務局：学校長>

3) 各委員からの評価及び意見

川端委員長より、厳しい財務状況に係る改善策等に対し、大胆な発想も含めた忌憚のない意見等を求める旨の話があった。

続けて、本評価活動の根幹であるPDCAに対する取組において、教職員間に温度差があり、個々の再認識を図る必要があるのではとの意見あり。

以下、学校自己評価報告書の評価項目（文部科学省が定めた「専修学校における学校評価ガイドライン」をふまえた10項目）に拠り、各委員の意見等をまとめた。

[教育理念・教育目標]

坂口委員

- ・理念、目標の周知や実践について、各教職員ともしっかり言えること、内部からの危機感として捉え、教育に反映させる必要がある。
- ・一部の部署、職員の状況が全体に影響する。
※人事考課にある自己評価や改善点等、個々の取組に温度差がある旨の学校長の意見あり。

[教育活動]

牧野委員

- ・診療情報管理士の資格取得状況等はどうか。指導体制の効果は上がっているか。
※同資格の取得状況（11/12）、好調である旨等説明。

野中委員

- ・介護福祉士国試の状況はどうか。実務でも取得できる中、現役学生の合格率が重要。指導体制の確立等を要するとともに、引き続き特色ある教育にあたってほしい。

[学生支援] ※財務、学生募集との関連づけを含む

牧野委員

- ・看護、介護とも人材不足であり、高校看護科入学対象（中学生）に、奨学金制度（3年・5年）を設け案内している。介護について、関係団体からの支援を探り、本校を介して人材確保につなげることを学生募集につなげてはどうか。

※入学前から申し込める介護、保育の修学資金制度もあるが、さほど効果は出ていない。関係団体との連携について検討したい旨の学校長の意見。

野中委員

- ・看護の人材も不足しているが、病院の奨学金制度で県外に流れる実情もある。
- ・中学生のインターンシップ受け入れで、学生支援に係る内容のPRから受験につなげては。

坂口委員

- ・看護の求人は、宮崎市内だけで300件あるが、定員割れしている学校も出ており、学生の確保が厳しい状況にある。
- ・福祉科（高校）以外からも介護人材を採用しており、国試が義務づけになった中、実務で資格を取得する者もいる。支援体制を含め、進学して学ぶことのメリットを明確に打ち出す必要がある。

※学校長より、社会福祉科の募集停止、医療情報管理科、介護福祉科、保育科の改編、資格取得の状況、今後の学生支援を含めた魅力づくりについて説明あり。

[学生の受け入れ募集]

川端委員長

- ・高校との関わりや情報提供の方法等どのようにしているか。検討、改善の余地はないのか。

※広報の実施内容や方法について、学校長より、次年度の改善、取組を含めて説明。併せて、介護実務者研修等の募集状況は学納金も影響しており、逼迫した経営状況等から苦慮している旨の意見あり。

[財務状況]

牧野委員

- ・改善策にあるように優先事項として取り組む必要がある。収益事業について、さらに検討を重ね、実施の方向で。

※収益事業について、牧野委員からの外国人留学生受入の可能性等の意見を含め、学校長より回答。加えて、他学科（PT、OT、看護等）設置についても、飽和状態になりつつあり、後発でもあることから、現実的でない旨の意見。

- ・財務状況は厳しいが、課題の改善や募集活動に係る職員の意識づけのためには、処遇に対する配慮も必要。

坂口委員

- ・財務基盤の安定について評価3は妥当か。現状をふまえた改善が必要。
※評価2の意見もあったが、現時点の状況として3とした旨、学校長より説明。

川添委員

- ・厳しい財務状況の改善に向け、評価委員（関係団体）としても協力していきたい。

5) まとめ

川端委員長

- ・本委員会以外の場合でも、本校評価に係る課題について引き続き検討し、随時、現場の意見としてフィードバックすることで、課題の改善につなげていきたい。

※ [学校運営] [学修成果] [教育環境] [法令等の遵守] [社会貢献・地域貢献] について直接的な意見等なかったが、各項目とも、学校自己評価にある改善に努めることは勿論のこと、急務の課題である財務の安定に係る事項について、今後とも各委員や関連団体との連携、協力を図っていきたい。

以 上